

明日にむかって

発行 社会福祉法人陽光会/陽光保育園/板橋第十小学校学童クラブ 発行日 2010年12月17日
 編集 「明日にむかって」編集委員会 住所 東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

63号

4月、陽光保育園の玄関で飼われているグッピー（熱帯魚）は大活躍します。お母さんから離れ、不安いっぱいの子どもたちをなぐさめてくれるお友だちです。「お魚にマンマあげようね」と水槽を覗かせてあげると、不思議とたいがい涙は晴れます。グッピーが陽光保育園にやってきたのは25年以上前のことです。地域の方が「バザーで売ってください」と持ってきてくださいました。そのとき稚魚を飼い始めたのがきっかけです。こんなに小さいのに一生懸命生きていく姿がけなげで、やさしい気持ちになります。グッピーは、卵胎生なので、親魚に似た姿で早朝に産まれてきます。ほんの数ミリの透き通ったたくさんの稚魚が産まれ出た朝、力つきた雌が死んでいるのを発見します。小魚にとっても出産は命がけです。どうか命を受け継いで、親たちの分まで元気に育って欲しいと思わずにはいられません。（H・T）

最近の園外保育から



11月18日、3歳児クラスは初めての山登り。めざすは西山高取の頂上。がんばるぞー！



10月26日、練馬区・内田農園へ。4・5歳児でいも掘り。やったー！こんなに大きいのが掘れたよー！



城北公園まで、ちょっと遠出。2歳児にとって枯れ葉は格好の遊び道具。ひらひら、サラサラ、気持ちいいね



学習会「子ども・子育て新システムってなあに？ これから保育園がどうなるのか学ぼう」（10月14日、陽光保育園ホール）で、講演する逆井直紀氏（全国保育園連絡会事務局長）

そんななか、陽光保育園では、10月14日、全国保育園連絡会事務局長・逆井直紀氏をお招きし、「新システム」についてのお話を聞きました。内容を簡単にまとめると次のとおりです。

もし「新システム」が採用されると…

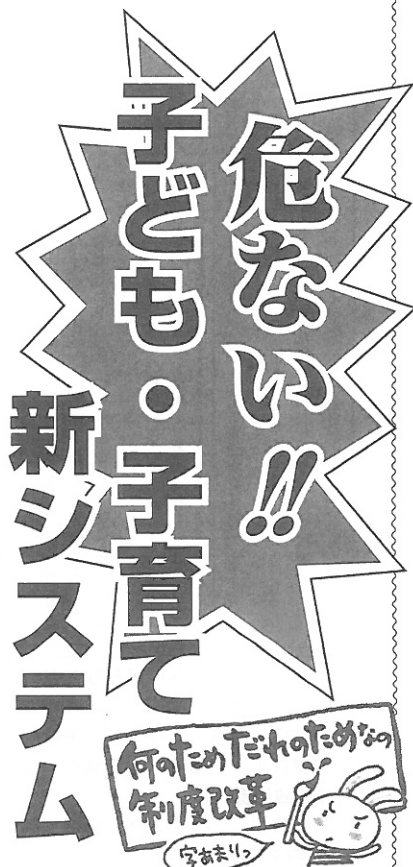
（1）自治体は責任放棄
 市町村は、保育が必要かどうかを認定するだけ。保育園入所に責任を持たず、保護者は自力で保育所を探し、直接契約をしなければなりません。

（2）なくなる最低基準
 国の定める最低基準がなくなり、保育の地域格差が一層広がります。保育士1人で保育できる子どもの人数の最低基準がなくなるというところは、子どもの命、安全が危険にさらされることにつながります。

（3）応能負担から応益負担へ
 保護者の所得にかかわらず、サービスを

今、国は、保育制度を大きく変えようとしています。新たな保育制度案「子ども・子育て新システム」（以下、新システム）は、これまでの経緯や、現場の状況を十分に議論もしないまま、保育園と幼稚園を一体化しようとするものであると同時に、児童福祉制度として機能してきた現行保育制度の解体をはかる案になっています。

実際には、子どもが必要な保育を受けられなくなる恐れがあるだけでなく、待機児童の抜本的な解消にはつながらない案になっています。また、その内容が、国民や、保育関係者に十分知らされず、財源保障の確約もないまま、2011年初頭の通常国会に法案が提出され、進められようとしています。



●私からもひとこと●

楽しみにしていたも掘り遠足が終わると、「今度は、焼きいもだ！」と見通し、薪を取りにいこう「ビニール袋は破けるから、リュックを持っていこう」と、子どもたちから声があがります。そして、リュックを背負って薪を取りに行きました。「たくさん食べるには、たくさん薪を拾わないとね」「小さい子の分もね」と、力を合わせて薪を拾いました。

毎日、仲間とともに遊び、生活することで関係も深まり、集団として成長していきます。新システムになると、親の就労時間などを基準とした認定になるので、保育園の利用時間がバラバラになり、集団での生活や遊びは困難になります。子どもの発達を保障し、質のよい保育を保障していくためにも、新システムに反対します。（陽光保育園4歳児クラス担任 及川悦子）

●私からもひとこと●

4月当初はまだ園生活に慣れてなくて泣いていた子が多かったためか組（2歳児）も、今ではすっかり落ち着き、元気いっぱい遊んでいます。外遊びが大好きで、砂遊びでも散歩でも、いつもニコニコ笑顔がいっぱいです。けんかもするけれど、お友だちが大好きで、一緒に遊ぶことも多くなってきました。お友だちのまねをしながら、互いに刺激し合って成長してきました。それは、日々の生活をともにすることで「仲間」として認め合っているからでしょう。そんな子どもたちの姿がほほえましく、毎日癒されています。

もし「新システム」によって保育制度が変えられたら、集団としての生活が保障されなくなってしまう。「保育」が「託児」になってしまうかもしれません。子どもたちのためにも「新システム」には反対していきます。（陽光保育園2歳児クラス担任 湊千秋）

このような新システムを導入するのではなく、子どもの貧困や、子育て困難が広がっている状況をふまえ、国と自治体の責任を確保しながら、保育所・幼稚園、学童保育、子育て支援の制度を拡充すべきです。

私たちは、政府が新システム案を撤回し、国と自治体が責任を負う現行保育制度を拡充することを強く求めます。（陽光保育園保育士 齋藤彩子）

現行保育制度の拡充こそが重要

（4）認定制によって保育が壊れる
 保護者の就労時間などを基準にした認定になり、保育所の利用時間がバラバラになります。例えば、4時間しかない子、6時間しかない子、11時間いる子などが一緒に生活するのですから、集団での遊びや、生活は困難になります。

（5）保育園は経営困難に
 このシステムでは、毎日何人の子どもが登園してくるかも不安定になり、園の経営も困難になります。保育者の安定した雇用も難しくなり、結果、保育の質が低下し、子どもの健やかな育ちを保障することが難しくなります。



字がまじり

●私からもひとこと●

「保育園を選ぶことができますよ、選ばれる側の保育園はお互いに競い合うからよい保育園しか生き残らないので、保育の質が落ちることはありません」
 何の保証もないこの言葉を信じる人はいないだろうと思っていました。保育制度が、介護保険制度の要介護度や障害者自立支援制度の要支援度のような制度に移行するという話を聞いて、ようやく私の中でその危なさが実像となって理解できました。私が働いている「とうふ工房大谷口の家」は、地域活動支援センターという障害者自立支援制度の端っこに位置づけられた作業所です。経営は、職員の熱意と我慢によって支えられているのが現状です。仕事は忙しく、休憩さえも十分ではないような施設です。

経営が苦しくなると、手のかからない元気な利用者がお金に見えてくるとまでは言わないが、そうではない入所希望者に小さく落胆してしまう自分が嫌になることがある。予算削減・成果主義を基本にした新システムには「福祉」という文字が見あたらないという。行政は保育を利用することができる人を認定するだけで、経済力によって受けられる保育格差は当然なんだという新自由主義を背後に掲げ、行政が責任を持たないためのビジネスモデルがスタートしようとしています。（陽光保育園後援会会長 中川 守）



大和久勝（おおわく・まさる）
 1945年東京生まれ。元小学校教諭、現在大学講師、全国生活指導協議会常任委員。「困った子は困っている子〜「軽度発達障害」」（編著）もと学級・学校づくり（編著）かもがわ出版、ほか著書多数

■地域共育講座 2010年11月2日/陽光保育園ホール（参加者63名）
 ◆「共感」が育てる子どもたちの自立
 講師：大和久勝先生
 毎年恒例になった陽光保育園の地域共育講座。今年は大和久勝先生をお招きしてお話を聞きました。「子どもたちの心に寄り添う」とは「あせらず、あきらめず、ゆくりと育てる」とは「一なすのみなさんの心にしみたまようです」
 【感想アンケートより】
 ☆具体的な体験が多く、とても心にしみました。子どもと対話、話を聞いてあげること……できておき、と思っても、振り返れば、普段の何気ない会話、スルーしていることもあるな……と気づかされました。「子どもたちの長所をつかむこと」、心にひびきました。（陽光保育園保護者）
 ☆子どもの居場所や出番の大切さを知りました。一人一人の持ち味、いろいろなことを理解し、生かせる場面をつくってあげたいと思います。（陽光保育園職員）
 ☆「困った子は困っている子」という視点に立ち、その子の生きづらさを理解する努力をしなければと思いました。（陽光保育園職員）
 ☆今の学校の先生たちの状況は、忙しすぎるのではと思いました。大和久勝先生のよう、共感しながら子どもと向き合う、好きなことを織り込みながら進んでいく、とても理想的だと感じました。（匿名）
 ☆子どもを見る視点について考えさせられました。「焦らぬ、あきらめず」というフレーズが印象に残りました。（北町保育園職員）
 ☆先生の人柄がにじみ出る温かい口調のお話に安心し、もつとおおらかな気持ちで子育てしていきようと思いました。「発達障害」程度の差こそあれど、子どもも持っている。その子の特性を認めてあげることが大切」にハッとさせられました。親と教師、親と親がつながり、一緒に子育てする楽しさと大切さを再確認しました。（陽光保育園保護者）



※大和久勝先生の顔写真は「困っている親と困っている教師〜対立から共同へ」（新日本出版社）より

こあんない
 ◆荒馬座ミニ公演
 日時 2011年2月23日(水) 10時
 場所 陽光保育園ホール
 *荒馬踊り他、民族歌舞団荒馬座のミニ公演です。地域のみなさんも、どうぞお越しください。無料です。
 ◆陽光保育園卒園式
 日時 2011年3月20日(日)
 場所 陽光保育園ホール
 ◆北町保育園卒園式
 日時 2011年3月17日(木)
 場所 北町保育園ホール

ご報告
 社会福祉法人陽光会では、2004年度より板橋区立板橋第十小学校学童クラブの運営を受託してきましたが、来年度からは同校の板橋区版放課後対策事業「あいキッズ」も運営受託することになりました。
 「あいキッズ」は、全児童を対象とした事業で、子どもたちの遊び場を確保し、学習支援やさまざまな文化・スポーツ、体験交流活動を提供していくというものです。学童クラブも従来どおり運営しますが、これまで以上に地域のみなさまのご協力・ご支援をおおぐことになりそうです。どうか今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

しぐさで伝わるメッセージ

0歳児編

ときとして思いもよらない姿を見せてくれる子どもたち。今回もそんな子どもたちの姿をご紹介します。0歳児編です。

日々成長する姿が目に見えてわかる0歳児。入園当初ミルクを飲んで寝ているだけだった赤ちゃんも、今はハイハイしたり、つかまり立ちをしています。ハイハイやチヨチ歩きだった赤ちゃんは、今では走りまわっています。

月齢の差で睡眠時間も異なるため、それぞれの生活リズムに合わせて室内遊び。お散歩に行くときは、歩ける子は保育士と手をつなぎ、ハイハイの子はベビーカーに乗って、毎日楽しく過ごしています。

「ゴホン」 「ダイスキ」

ある日のこと、ようやく歩きができるようになったばかりのSちゃんとKちゃんが、お気に入りの絵本を持って、保育士のところに近づいてきました。そうすると、Aくん、Hくんも「イレター」というように集まってきて、絵本の時間が始まります。生後7か月のRくんはまだ歩くことができません。おすわりしたまま1冊の絵本を持ってじっと見つめていたので、「読もうか」と声をかけました。「じゃあじゃあびり」という絵本です。保育士がRくんを前にして声を出して読み始める



と、Rくんはニコニコ笑顔。手足をバタバタさせて、大喜びです。読み終わりに、「おしまい」と保育士が言うと、急に「ふえん」と大泣きするRくん。もう一度読み始めると、涙目ながらニコニコとうれしそう。「ふえん」と泣いている声から、「モウイッカイ ヨンデ」という気持ちが開いてきました。

「ハイ、ドウゾ」

0歳児の部屋につながるテラスで遊んでいたときのこと。クラスでいちばん月齢の

低いYちゃんとRくんがいつしよにひなたぼっこをしていました。そこへクラスでいちばん月齢が高く、面倒臭いHくんがやってきて、「イイコ、イイコ」というように、二人の頭を撫でていました。

そのときRくんがおしっこをもらしていることに気づいたHくん、タッタッタと室内に駆けていったかと思うと、「あい(はい)」と何かを投げ捨てて、走っていつしよにいました。

よく見ると、それは2枚のおむつカバーでした。しかもRくんではなく、ほかの子のもの。それでも、Hくんの姿から、「オキガエ、ドウゾ」のメッセージが伝わってきました。



泣き声もメッセージ

クラスでいちばん月齢の低いYちゃんは、まだハイハイができなかったころ、欲

つくろう保育所！ こわすな保育制度！
すべての子どもによりよい保育を！

11・14大集会 in 日比谷野外音楽堂

小紙表面に掲載の「子ども子育て新システム」への危機感から、この集会には全国から4800名が参加。陽光会関係者(保護者、職員、理事など)も23名が参加しました。全国保育団体連絡会・実方伸子さんの「基調報告」では、「新システム」では子どもの発達に即した保育は困難であること、自ら声をあげることでできない子どもたちを守るために、今こそ子どもに関わるすべての人が手をつなぐべきという強い訴えがありました。続く「リレートーク」では、保護者、保育園・幼稚園経営者、障がい者、学童保育関係者など、さまざまな立場から切実な声がかげられました。国会に向けた請願署名には、全国から117万5000筆近くが集まりました。目標は500万筆です。どうぞ協力ください。

しいおもちやを見つめては泣いていました。でも、ハイハイで動くことができるようになった日を境に泣く姿は見られなくなりました。好きなおもちやを見つけてはハイハイで取りにいき、手にとると、「ヤッター」とばかりにニコニコします。まだまだお話のできない0歳児の子どもたちですが、さまざまな姿から、子どもたちのたくさんの気持ちが聞こえてきます。(陽光保育園0歳児クラス担任 竹下 菜枝)

親子でいっしょにあそぼう
*日程 1月13日(木) 2月10日(木) 3月10日(木)
*午前9時30分~11時、陽光保育園にて。タオルや着替えをお持ちください。詳しくは陽光保育園までお問合せください。
*今年度はあと3回です。
◆こんなときご利用ください
・保護者の就労・求職・通院・職業訓練・通学・看護・介護など。また保護者の傷病・災害・事故・出産・冠婚葬祭など緊急時
・保護者の生涯学習・子育て不安・リフレッシュなど
・育児相談、健康診断等でお子さんが保育園での保育が必要と認められたとき
◆利用日・利用時間など
・月曜日~金曜日の9時~17時(土・日・祝日・年末年始休)
・1歳以上で、離乳の完了しているお子さんから。ただし、板橋区発行「すくすくカード」利用の方は生後10か月から。
・一日1時間~8時間。ご希望の時間帯で利用できます。
◆お申し込み・お問合せ
・直接陽光保育園へ。
(受付時間10時~17時)
・緊急時以外は、なるべく利用される10日前までに申し込んでください。
・事前に面接をしていただき、利用日・利用時間を予約していただきます(親子でおいでください)。
・利用料その他、詳しくは陽光保育園までお問合せください。

建築資金
◎寄付のご協力ありがとうございます。
(2010年7月1日~2010年11月20日/順不同・敬称略)
民宿「森越」土屋栄一、矢野栄治、山下澄子、松沼富佐子、磯貝正、秋葉孔、劇団銅鑼、福祉保育労働組合陽光保育園分会
◎財政活動
職員によるリズム講座講師、陽光Tシャツ販売、食品販売
◎寄付のお願い(1口5000円/何口でもけっこうです)
郵便振替口座 00140-0-260468 名義 陽光保育園建設委員会

戦禍のなかを 生かされた者の願い
シリーズ 戦争と私
利光はる子
生まれた子どもが65歳になる。長い時間が過ぎているのに、私には昨日のことのようにあの残酷な光景が脳裡に焼きついている。
1945年3月9日夜半から早暁にかけての東京大空襲です。祭りのときより大勢の人が猛火の中を逃げまどい、呼吸するのもやっとでした。私もその一人で生き残ることができました。
朝になり、はれた眼で辺りを見ると、炭化して男女の区別のつかぬ人、幼子をしっかりと抱いてうずくまった姿、親にはくれた子ども、黒茶色のマネキン人形のような人、道路一面、血の足跡、累々と横たわる遺体、生きながら衣服に火がつき、もがき苦しんで息絶えた様子の遺体……。眼を覆うばかりでした。辺りは人間の焼ける臭いが充満していた、これが事実です。今でもその臭いは忘れません。この様子を想像してみてください。
国の方針どおり堪え忍んできた国民が何故こんな目に遭うのでしょうか。当時は食糧も衣類もみな配給制で大変でした。夫は赤紙1枚で出征し、老いた両親と幼子を抱え、女手ひとつ何の保護もありませんでした。夜半の空襲で誰もが逃げるのは困難で、家族はバラバラ、一家全滅。
隣組55名中、生存がわかったのは、隣家のお姉さんと父と私の3人だけでした。多くの人々が生き証を残すことができず、無念な思いで逝かれました。「罹災者に薬は出すな」と軍の命令が出ていたので、20日余り苦しんで死んだ母に一眼の薬ももらえませんでした。
戦争って何なのでしょう。男性はむろん、弱い女性や子どもが苦しみ、残るのは灰と困難だけ。一夜にして親を失い、孤児になり、大変な人生を強いられた方も多く、でも国は何もなかったかのようになり、65年も過ぎてきました。
今、残り少ない人生のなかで、「東京大空襲犠牲者」の「慰霊碑」と「記念館」を東京につくってくださいと、131名とともに高等裁判所に訴訟中です。世界中で今も戦禍が絶えません。残念なことです。子どもたちの未来のためにも、平和の尊さをみなで話し合ってください。建設中のスカイツリーのあの街、その近隣であった事実を忘れないでほしいと、心から願っております。(板橋区在住)



お父さんの出番です!!
土日のどちらかは、妻が仕事でいないことが多いので、僕と娘は妻を見送りながら、お散歩に出発します。
数年前から板橋に住むようになったものの、娘が生まれる前までは、いつも使った道以外は迷路に迷い込むような気持ちでいましたが、娘と一緒に自転車で公園を探しているうちに、だいたいがわかるようになってきました。
こうして知らない公園を発見しては、娘も僕も意気揚々と遊びに向かいます。いくつかの公園を一通り巡って遊んだ後は、最後に図書館に寄るのが娘のお気に入りのコース。
娘が選んだ絵本を読むのですが、一冊読み終わる前にすでに飽きてしまい、「次はこれ」と新しい本を持ってこようとしています。それを一旦止めて、今読んでいた本を元に戻させ、それから新しい本を持ってきて読む、というのを何度も繰り返すのですが、自分の体よりも大きな大型絵本も一生懸命持っているのです。そのときはさすがに僕もお手伝いをします。
こうしたやり取りを終えてから帰宅して、お昼ご飯というのが定番になりつつあります。
公園では、ブランコやシーソー、滑り台など、自分よりもずっと大きな遊具に果敢にチャレンジし、自分なりの遊び方をきちんと見つけています。そして、同じくらい年齢の子どもを見つけると最初はお互いに意識しながらも距離を置いているのが、徐々に距離を縮めながら仲良くなっていき、今では、あちこちに公園友達を作っています。
中には青い目のお友達もいて、言葉の壁を感じさせない国際交流を繰り返しています。オランダやオーストラリアなど国籍もさまざま、お父さん同士でも片言の日本語と英語でくはくはな子育て談義を繰り広げています。
今度の土日は、ボール持参でオランダ人のヤマト君がいる公園に遊びに行き、サッカーの実戦は子ども同士に任せて、大人同士は彼らのプレイを観戦したいなと思います。また片言の英語と日本語で、ワールドカップ日本vsオランダの反省です! (1歳児クラス・坂田栄佳の父 坂田啓士)